

モーダルシフト等推進事業

トラック輸送から大量輸送機関である鉄道・船舶輸送への転換(モーダルシフト)等を、荷主・物流事業者を中心とする多様・広範な関係者の連携のもとに推進する。

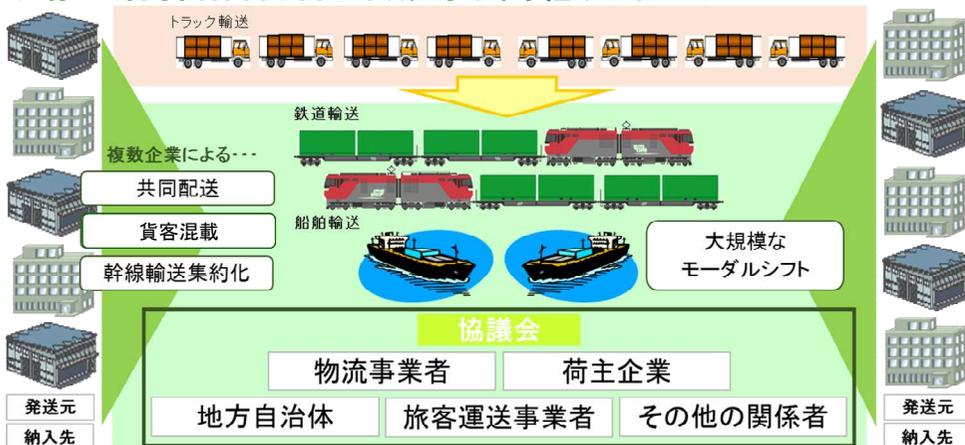
「モーダルシフト等推進事業」

モーダルシフト等の物流総合効率化法に基づく取り組みにおいて、協議会の開催等の事業計画の策定に要する経費への支援を行う。またモーダルシフト及び幹線輸送の集約化について、初年度の運行経費の一部に対する支援を行う。

支援対象となる取り組み	計画策定経費補助	運行経費補助
大量輸送機関への転換	モーダルシフト	補助率:1/2以内 上限500万円
	幹線輸送の集約化	
トラック輸送の効率化	共同配送	対象外
	その他のCO ₂ 排出量の削減に資する取り組み	

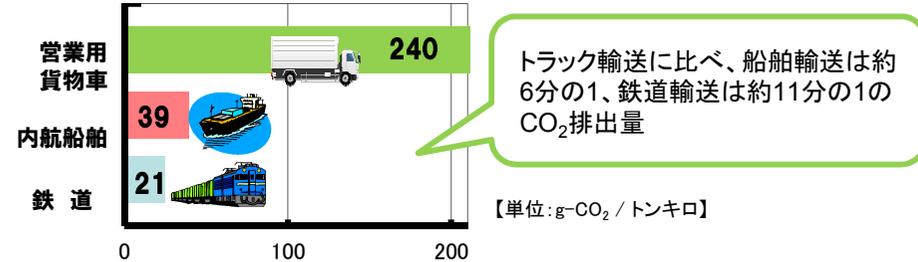
- ・ 計画策定経費の支援を通じ、大きな効果が期待できるが実現が容易ではない「多様・広範な関係者による合意形成」を促進。
- ・ 計画実行開始後、2年間の実績を報告。
- ・ 物流の効率化を通じ、労働力不足対策等に貢献。

多様・広範な関係者の合意形成による取り組みのイメージ

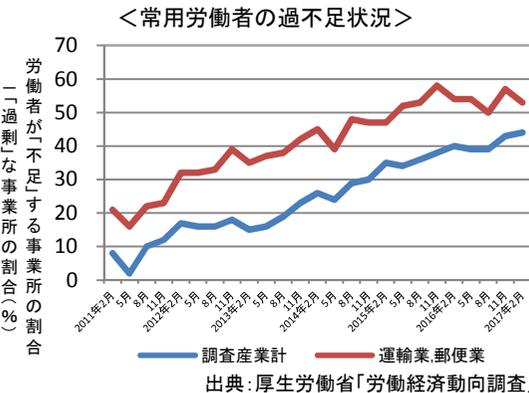


参考

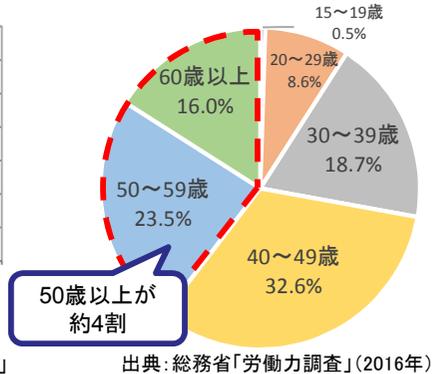
○輸送量当たりの二酸化炭素の排出量(2016年度)



○労働力不足の深刻化



<トラック業界の年齢構成>



○総合物流施策大綱(2017年度~2020年度)(平成29年7月閣議決定)(抜粋)

- ③共同物流により積載等のムダをなくす・輸送モード間の連携・協働(モーダルシフト)で効率的に輸送する
- 複数の事業者が連携・協働して共同物流を実施することによって、積載率の向上、倉庫や車両の稼働率の向上、コスト削減等を図り、物流効率化を推進するとともに、道路ネットワークとの連携を高めつつ輸送効率に優れた鉄道又は船舶による輸送の活用を促進する(略)。

○モーダルシフトに関する指標(総合物流施策推進プログラム(平成30年1月)(抜粋)

- ①鉄道による貨物輸送トンキロ【2016年度 197億トンキロ → 2020年度 221億トンキロ】
- ②内航海運による貨物輸送トンキロ【2015年度 340億トンキロ → 2020年度 367億トンキロ】

中継物流拠点『コネクトエリア浜松』

スマートICが設置された新東名高速道路浜松SAに中継物流拠点を整備
 中継輸送の促進を図り、トラックドライバーの労働環境改善及び働き方改革を支援

概要



大阪

246km(3h5m)



中継物流拠点

コネクトエリア浜松

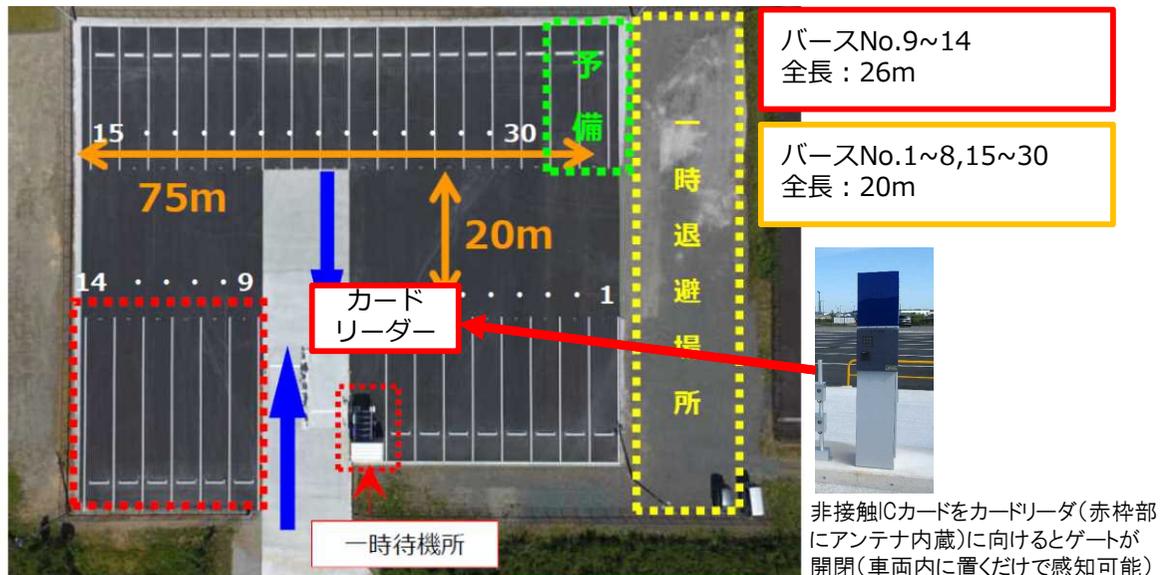


東京

224km(2h48m)



中継物流拠点詳細



バスNo.9~14
全長：26m

バスNo.1~8,15~30
全長：20m

非接触ICカードをカードリーダー(赤枠部にアンテナ内蔵)に向けるとゲートが開閉(車両内に置くだけで感知可能)

■利用方法

- ①利用契約・登録事前に利用契約を締結し、登録車両台数分の利用登録カードを発行
- ②事前予約専用の予約管理システムから利用日・利用時間帯を予約(利用時間は1回あたり1.5時間)
- ③利用予約日・利用時間帯に、利用登録カードにより利用(カードによるゲート開閉管理)
- ④精算利用料金、月会費は月締め・翌月末払いとし、登録会社へ全車両分一括して請求

スワップボディコンテナ車両利用例

(株)ホームロジスティクス×富士運輸(株)による中継輸送



・中継拠点にて、トレーラー(スワップボディコンテナ車両を含む)の交換、又はドライバー交代を実施

⇒ドライバーは日帰り運行が可能となり、拘束時間が大幅に削減。労働環境の改善とともに、働き方改革の実現に寄与